

横田めぐみさん 有本恵子さん らを救出しよう！

——北朝鮮に拉致・抑留されている日本人の原状回復のために——



被拉致日本人を救出する会

「被拉致日本人を救出する会」事務局 大阪経済大学 黒坂真研究室

〒533 大阪市東淀川区大隅2丁目2-8

大阪経済大学 代表電話番号 06-328-2431

大阪連絡先 丸山利之 自宅 06-972-0362

兵庫連絡先 中野豊治 自宅 0797-23-5101

郵便振替口座 被拉致日本人を救出する会 00940-7-43232

## お詫びと訂正

冊子「横田めぐみさん・有本恵子さんらを救出しよう！」の以下の部分に、私のミスで誤字、入力間違いがありました。お詫びして訂正いたします。

### 誤

### 正

- (1) P 3 右下から 8 行目 故安委員長→公安委員長
- (2) P 3 右下から 3 行目 折らず、→おらず
- (3) P 3 右下から 13 行目 結果としては。→結果としては、
- (4) P 9 左上から 10 行目 理非曲進→理非曲直
- (5) P 13 左下から 8 行目 その中には果たして→ その中にはたして
- (6) P 13 右上から 7 行目 同和教育担当者→同和教育主担当者
- (7) P 13 右下から 11 行目 人権差別条約→人権差別撤廃条約
- (8) P 13 右下から 4 行目 嘘のように消え去り→露のように消え去り
- (9) P 14 左下から 14 行目 ポイントであるる→ポイントである
- (10) P 26、30 斎藤一朗→斎藤十朗
- (11) P 15 左下から 15 行目 干し切れ→ちぎれ
- (12) P 15 左下から 10 行目 竹業→所業

## 「北朝鮮への食糧支援に反対する」アピール賛同者の追加発表

冊子作成後、P 16 の「北朝鮮への食糧支援に反対する」アピールの賛同者に以下の方が名乗り出て下さいました。

村田秀人（池田市）　名田正隆（大阪市）　森口昌彦（生駒郡平群町）  
菊川勝俊（大阪市）　阿部肇（三木市）　豊田昌靖（神戸市）

黒坂　真

## 横田めぐみさん 有本　恵子さん　らを救出しよう！

---

発行年月日　平成 9 年 9 月 30 日  
発行者　被拉致日本人を救出する会　黒坂　真  
〒533 大阪市東淀川区大隅 2 丁目 2-8  
　　大阪経済大学内  
印刷者　真美印刷桃山営業所  
〒612 京都市伏見区桃山町養齊 16-6  
TEL 075-611-4773

---

価額 500 円

# 横田めぐみさん・有本恵子さんらを救出しよう！

## 《目 次》

第一章 横田さん・有本さんからの訴え .....	1
第二章 「北朝鮮による拉致」被害者家族連絡会の訴え .....	3
第三章 被拉致日本人を救出しよう！ .....	5
第四章 北朝鮮への食糧支援に反対する .....	16
第五章 請願・陳情をしよう！ .....	17
第六章 「被拉致日本人を救出する会」への参加を訴えます .....	19

資 料 北朝鮮に拉致・抑留されている日本人の原状回復のための陳情書 他



か本件にどれほどの手をつくしたか、主権国益が犯されるままに見て見ぬふりをしてテロと犯罪の北鮮に要求されるままに米を貢ぎ、日朝関係の改善を哀願し、あまつさえ在日朝鮮人の送金にこれまた見て見ぬふりだ。囚われの身の同胞のその姿が我が国の現在のありのままの姿だ。拉致された同胞を救出しなければならない。

日本人に突きつけられたこの問題を解決することが、日本人が日本国家を取り戻すことに通じると信じて、被拉致日本人を救出する会に入会し、行動に参加した直接の原因です。日本の主権、国益から、朝鮮と朝鮮人のことは正否をはっきりさせていかねばならない。

国家百年の計として拉致問題に取り組もう！

南木隆治（大阪府立盲学校高等部教諭）

私は黒坂先生の活動を全面的に支持します。それは以下のような理由によります。私は大阪府立高校に20年近く奉職させていただいていますが、学校で人権教育というとき、その中には~~は~~果たして日本人の人権は含まれているのかと、かねてより疑問に思うことがありました。特にその傾向は90年代に入り、ソビエト連邦の崩壊と、社会党が日米安全保障条約を肯定して以来、反米的だった教師たちがそのよりどころを失って、反日の教育を押し進めるようになって、いっそう

拍車がかかりました。いまでは平和教育と言えば反日教育のことであり、反差別教育の実体は、日本人は生まれながらにして罪を背負った民であると、児童生徒を洗脳しようとする差別教育に変質してしまったと私は判断しています。職員会議で同和教育担当者が「日本人は人殺しだ」と叫び、それがそのまま通ってしまうような学校もあります。大多数の児童生徒は自分が国家の主権者であるという誇りを持てる様な文脈で教育を受けて居らず、又、国民の人権を物理的な力行使してまで守り抜くのは国家だけであるという事も教えられていません。それ故日本人の人権を守り抜くために自らもなにがしかの努力をせねばならないというような事は、まず考えることも出来ない様な状態に置かれています。何といっても日本人といえば外国人を差別し、虐殺してきた悪い民族などと教えられているわけではすから、そんな自分に誇りなどはじめから持てるはずがありません。

~~人種差別撤廃~~

~~人権差別条約~~を世界で最初に国際社会に訴えたのは日本であるという事実を教えるとほとんどの生徒はまず「嘘…」という反応を示します。

今回、北朝鮮による日本人拉致、奴隸化の実体が明らかになるにつれ、教育界を縛っているマインドコントロールの一つが~~は~~のように消え去り、日の光に照らされる領域が少しでも広がって行くことを、私は心より願っています。そしてまことに残念なことであるが、日本の周り

には北朝鮮のように、日本人の人権を明白に侵害しようとする国があり、その人権侵害から我々を守る者は日本国家しかなく、そして君たちは主権者として自らの人権が十分に守られるよう国家を運営、監視する義務があるのだということを、私は今後も生徒たちに教えていきたいと思っています。そのようにしっかりととした国家観を示して人権教育をする事が、同じクラスに在籍する外国籍の生徒に対しても必要なことであり、ひいては彼らが自らの祖国を尊重することにつながると私は信じています。

北朝鮮による被拉致日本人を救出することはもちろんそれだけで非常に大切なことです、單にそれだけに止まらず、教育、国家百年の計にとっても、極めて重要なターニングポイントであると言えます。

### 拉致事件は安全保障問題

宮本龍平（日本世論の会 大阪府支部）

救出をいかにして実現するかについては、昭和38年から58年にかけて発生した事件に対し、我が政府の対応振りはどの様なものであったか。主権国家としてこの事件の解決に誠意ある対応を実行し、それを国民に周知するといった責任ある行動をしたのか。何も北朝鮮のみを特定するのではない。日本の海岸線を侵す者はいかなる相手を問はずこれを捕捉する決意があったのか。主権国家とし

て二十年間に及ぶ対応は、単に個人拉致事件という性格を越えた国家の安全保障の問題をも持つものであることを自覚していたのか。

日本人を拉致するのが悪いのか、拉致される方が悪いのか。個人の尺度から言えば拉致する方が悪いに決まっている。しかし国家主権の立場から観れば個人の安全保障が守れない国家は国家ではない。これは日本国家の責任となる。二十年にわたる怠慢は強く責められるべきものである。従って北朝鮮の非人道性を言うのは易しいが、これでもって事件解決の決め手とする事は楽観にすぎる。一步海を隔てれば日本国内の平和ボケは通用しない世界の現実の厳しさがある。我々のこれから運動は、世論を高める努力をすると共に、そこにイデオロギーを持ち込まない、持ち込ませない事を絶対の条件としなければならない。これは運動の人道性と純粹性を保つゆえんであり、国民運動としての性格を確立する事が出来るからである。そして拉致事件は広義の国家安全保障の一環として把握し、極端な軍事費削減は長大な我が国海岸線を益々無防備にするものであることを忘れてはならない。我が政府には、本人や家族の胸中を押し計れば当今罷り通る被害者の人権よりも加害者の人権という国内の定法を絶対に北朝鮮という加害者に通用しないことを強調しておきたい。

## 第三章 被拉致日本人を救出しよう！

正義は勝つ

青木 匠（日本世論の会

大阪府支部）

今年は二度三度大きな雨、台風が日本を通過、各地に被害を残した。八月に入り、猛暑の連続に終戦当時を思い出す。毎日の戦況は新聞、ラジオで厳しいニュースを聞く。全国各地の大都市が毎日の空襲で焼かれしていく。広島、長崎の新型爆弾に、本土決戦を覚悟した。

今、命の大切さをより深く思い出すと感深い今日この頃である。八月十五日のお盆の正午、御聖断のニュースに胸がつまつたが、空襲がなくなり、焼け跡に電気がつき、ホットした。涙をのんで、海外から引揚げて帰る人々、住むに我が家なく、空腹を満たす食もなく、働くに職場もなく、頼るべき家族や親類縁者も何処へやら、病気をすれば医者にもかかれなかった。混乱の渦は大きく、果てしなく渦巻いた。そうした中に、昭和天皇の全国激励の旅の御姿があった。苦しみの中に一抹の光明を見いだし一生懸命働いて来た。ここに、半世紀余り世界の情勢も大きく変わった。日本も発展した。町も、家族も周囲も変わって来た。自分も卒寿を迎える年となった。今、漸くにして変わらないものを発見することが出来た。木枯らし吹く焼野ヶ原のバラック

建ての軒下に咲いていた可愛いあのタンポポの花、今も土手に咲く「踏まれても咲くタンポポの笑顔かな」（私を励まして下さった恩師の色紙より）太陽は東より登りて西に沈む。悠久の時を刻みつつ万物をはぐくみ育て、大宇宙を照らし大銀河とともにこの地球を引張って行く。寸分くるわぬ運行は、これが神様の働きという以外にない、と。朝には希望に目覚め日中は少しでも廻りの人々のお役に働き、夕食の食卓につく時は今日も、かけがえのない命を頂く。自然の恵みと正気に生きる喜びと感謝に今日も有り難う。正は邪に勝つ。雲に遮られた太陽も必ず何時かは晴れる日が来る。

一方的に北朝鮮に拉致された日本人。必ず正義が勝ちます。勝つよう努力致しましょう。力を合わせて頑張れば世論は人を動かします。神を信じて。

「切り札」を大事に！

稻田 朋美（弁護士）

北朝鮮について殆ど知識のなかった私でも横田めぐみさん拉致事件が発覚した後、雑誌等の北朝鮮に関する論文を読み、また黒坂先生のお話を聞くなどするにつれて北朝鮮という不気味な国に対し、戦慄を覚えずにはいられなくなった。国民を「核心階層」「動搖階層」「敵対階層」に分け、少なくない人々が強制収容所に入れられ、人間以下の扱いを受ける。穀物が200万トンも不足し、年間

何十万人もの餓死者が出ているに関わらず農民は軍用米の供出を強制され、国民は飢えながら「偉大な將軍万歳」と叫ぶ。そしてその「偉大な將軍様」金正日は「軍隊は即ち人民であり、国家であり党である」という軍事独裁思想の持主である。日本が交渉する相手とはこのようないい国なのである。

弁護士の交渉術において最も重要なポイントのひとつに「背後の恐怖」が挙げられるが、これは交渉決裂の際の強力な切り札を懷中に潜ませ交渉せよとの意味である。日本にとっての北朝鮮に対する切り札とはなんであるのか。食糧支援もその切り札のひとつであるはずであり、安易に妥協して食糧支援に踏み切ることはこの切り札をひとつ失うことになる。北朝鮮に拉致されたとみられる日本人は政府の発表によれば7件10人、横田めぐみさんが拉致されたのは13才の時で、この平和で豊かで自由な国日本からたった一人北朝鮮に拉致された少女と残された両親の長年の悪夢のような嘆きを考えるとき、私は日本人の一人として許せない気持ちになる。そして、日本人妻を含む日本人でありながら祖国に帰ることすらできないでいる約7000人の北朝鮮在住の人々。私は、今、現在、これら日本人の「人権」が侵害され続けていること、そしてこれら日本人を救出できるのは他ならぬ日本人と日本の政府以外にないことを広く訴えたいと思う。

北朝鮮への送金を禁止せよ  
魚谷 哲央（維新政党 新風代表）

北朝鮮によって日本人が拉致されてゐるのではないかとの二十年程前からの噂話が、今年になって横田めぐみさんの件で確定的な事実であることがマスコミによって明らかにされた。しかし、わが国政府及び警察当局は、九年前の参議院予算委員会でその可能性をほぼ認める答弁をしてゐたのである。

だが、さうでありながら、わが国政府がその解明に積極的に動いた形跡はない。ないどころか、国内に限っても拉致問題や日本人妻帰国問題、朝鮮総連不正献金問題など幾つもの重要な国家犯罪問題や外交問題を全く棚上げしたままで日朝国交回復を図ろうとしたり、最近では人道的といふ名分による食糧援助を行った。

北朝鮮の現金正日体制の崩壊が時間の問題であるといふのは、国際社会での一致した認識である。その上でどの様に朝鮮半島の統一を図るかによって当面の対北朝鮮政策が、特に米・中・韓・日四国で相違が生じてゐる事も事実である。

わが国としては、先づ、国民が故なく拉致されてゐるといふ国家主権侵害の犯罪行為を厳しく詰問する断固たる姿勢が大前提とならねばならない。（予想される北朝鮮側の無視に対しては、朝鮮総連からの送金を停止させるなどの対抗措置を当然打たねばならない）。それなくし